

# 株主通信

## 第13期報告書

2015年1月1日～2015年12月31日

### CONTENTS

|     |                  |
|-----|------------------|
| P01 | 株主の皆様へ(トップメッセージ) |
| P11 | TOPICS           |
| P13 | 連結財務諸表           |
| P14 | 株式の状況/株主メモ       |
| 裏表紙 | 会社概要             |



メガファーマへの導出を実現し  
全社の黒字化を達成しました。  
さらに研究開発をすすめ  
次につづく導出を目指します。

代表取締役社長  
吉野 公一郎



## 初の導出(ライセンスアウト)を実現しました。

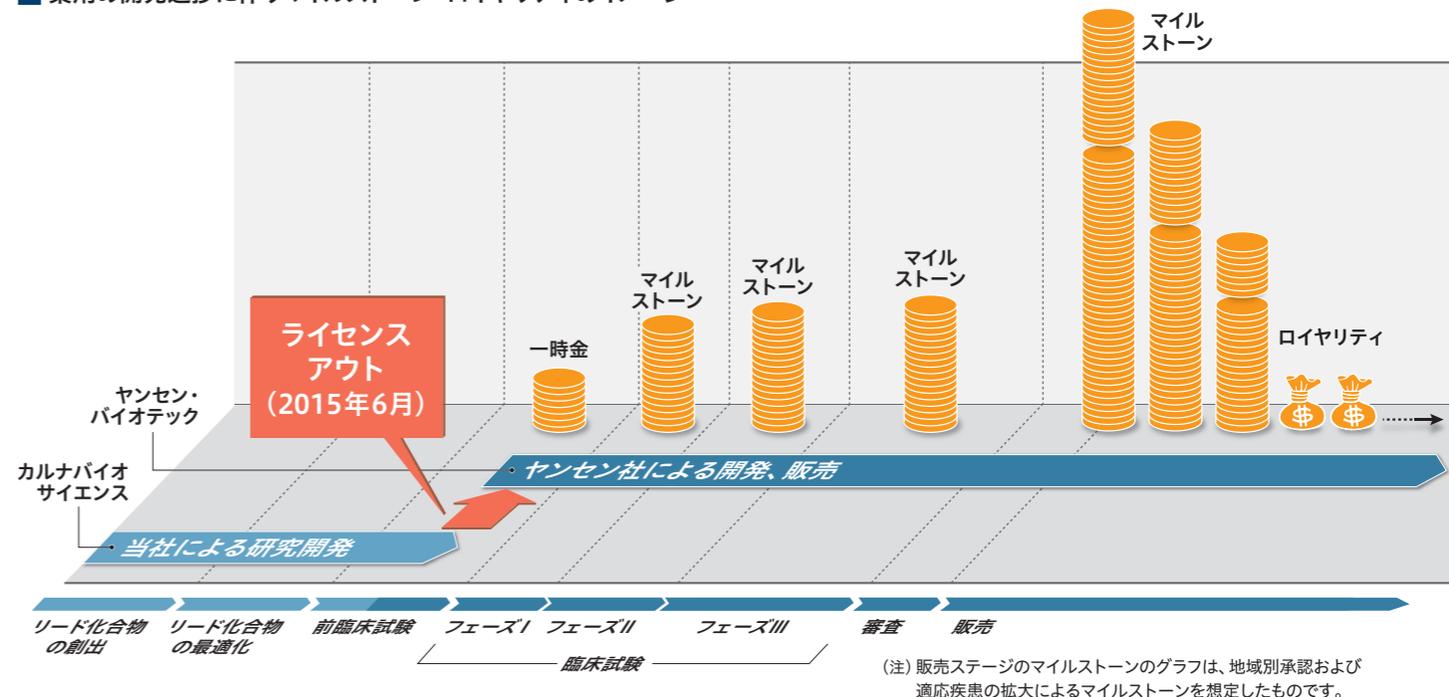
当期(2015年12月期)における最大の出来事は、当社の創業以来の念願であった「創業パイプラインのライセンスアウト」の実現です。2015年6月、当社は、自社研究として進めていたキナーゼ阻害薬プログラムについて、米国ジョンソン・エンド・ジョンソン社(以下、J&J社)の医療用医薬品部門である米国ヤンセン・バイオテック社(以下、ヤンセン社)と、導出契約を締結することができました。これまで当社を支えていただきました株主の皆様へ心から感謝申し上げます。

今回の導出契約は、ヤンセン社に対し上記キナーゼ阻害薬プログラムから創出された医薬品候補化合物の開発・商業化に関わる全世界における独占的な権利を供与するもので、その対価のひとつとして当社は

### ■ 導出(ライセンスアウト)とは

自社の創業研究に基づき創り出した医薬品候補化合物に関する特許権を、製薬企業等に許諾することをいいます。一般的に、導出後の医薬品開発は導入先企業が引き継ぎ、導出元企業は、その開発・承認の進捗に応じてマイルストーンを受領することができ、さらに上市後に当薬剤の売上高の一定割合をロイヤリティとして受け取ることができます。

### ■ 薬剤の開発進捗に伴うマイルストーン・ロイヤリティのイメージ



「契約一時金」を受け取り、売上高に計上しました。J&J社とは一昨年の夏から導出交渉を開始し、秘密保持契約やMTA(化合物提供契約)のもと、当社プログラムの独自性を評価したり、当社が実施した試験データを実際にJ&J社が検証いたしました。その結果、当社の秀でたキナーゼ創薬技術、つまり標的キナーゼのみを阻害し、その他のキナーゼを阻害しないという究極のキナーゼ阻害薬作りの技術等が高く評価され、今回のライセンス契約締結の決め手となりました。

今後、ヤンセン社が、当該医薬品候補化合物の開発ステージを進めていけば、各ステージ毎に契約一時金を大幅に上回る「マイルストーン」が当社に支払われる契約となっており、さらに同薬剤が承認を受け上市されれば、以後、売上高に応じた「ロイヤリティ」が当社に支払われる契約となっております。さらに、適応疾患領域や発売地域が拡大すれば、

### ■ J&J社およびヤンセン社について

J&J社はコンシューマー製品、医薬品、医療機器の3事業を世界で展開し、トータルヘルスケア部門では世界最大、2014年の世界医薬品売上高ランキングでは6位の企業グループ。ヤンセン社は同社の100%出資による医療用医薬品部門です。

|      |   |
|------|---|
| 名称   | Janssen Biotech, Inc.                           |
| 所在地  | 800 Ridgeview Road, Horsham, Pennsylvania 19044 |
| 設立   | 1979年   |
| 事業内容 | Johnson & Johnsonグループにおける医療用医薬品の研究開発            |

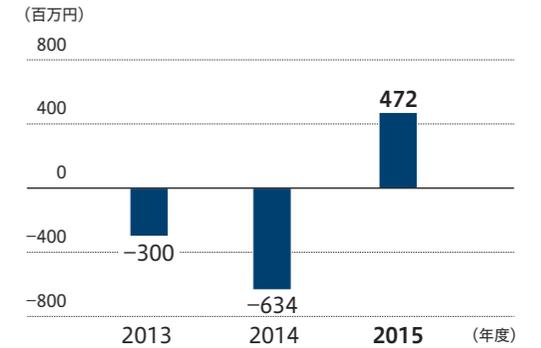
それに対応したマイルストーンとロイヤリティが追加で支払われます。  
(P.2のイメージ図参照)

当社における最大の事業目標は「革新的な医薬品の創出を通して人々の健康向上に役立つ」ことであり、今回その大きな一歩を踏み出したことを非常に喜ばしく思っています。当社は今回導出した創薬プログラム以外にも、前臨床段階に進んだ研究パイプラインをはじめ、複数の創薬プログラムを保有しており、それらについても、複数の製薬企業等と導出交渉を行っています。J&J社という世界最大のトータルヘルスケアカンパニーから高く評価されたことは、当社の創薬研究レベルの高さが証明されたことでもあることから、その実績は今後の製薬企業との交渉のハードルを下げることに確実につながり、次期以降の第2、第3の導出が実現する可能性も高まったと考えています。



当社は2003年に設立して以降、製薬企業や研究機関等に当社独自の創薬基盤技術に基づいたキナーゼタンパク質やプロファイリング・スクリーニングサービス等を提供する「創薬支援事業」によって安定したキャッシュフローを創出し、これを「創薬事業」の研究開発費に充当し、当社の強力な基盤技術を駆使して、画期的な創薬研究を進めるという米国型バイオベンチャーのビジネスモデルを推進してまいりました。この大きな先行投資を回収する時期が到来したといえます。当期の収益大幅改善は、当社のビジネスモデルの有効性を実証するものであり、今後も引き続き当社のビジネスモデルに沿って事業を推進することにより、創薬企業として大きく成長していきたいと考えています。

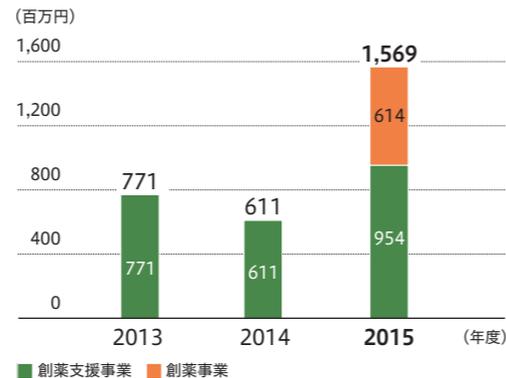
■ 営業損益



## 当期(2015年12月期)の業績総括

当期の全体業績については、前述のヤンセン社への導出実現による契約一時金収入と、創薬支援事業における小野薬品工業からの大規模委受託契約に基づくスクリーニングサービスの売上拡大が、収益改善に大きく寄与しました。この結果、連結売上高は前期比2.5倍の1,569百万円という大幅増収となりました。また損益面についても、売上総利益率の改善に加え、販売管理費の減少なども相まって、営業利益は472百万円(前期は634百万円の損失)、経常利益は492百万円(同607百万円の損失)、当期純利益456百万円(同846百万円の損失)と、いずれも大きく改善し、2003年の会社設立以来初めての「全社営業黒字」を達成することができました。

■ 売上高



## 各セグメントの主な取り組みと概況

### 【創薬事業】

当期の創薬事業は、第2四半期に計上した「導出契約一時金」による収入が寄与し、セグメント売上高は614百万円(前期は計上なし)となりました。

研究開発費に関しては、上半期は当期の必達目標であった「全社黒字化」を目指し費用を抑制しましたが、導出一時金の獲得により全社黒字が達成できる見込みとなったことから、下半期の期初に予算を見直しました。これにより前臨床試験に関する費用投入や、外部研究機関との積極的な共同研究の推進、研究開発体制の強化に向けた研究者の新規採用などの研究開発投資を積極化させた結果、通期の研究開発費用は403百万円(前期比24.2%減)となりました。

以上の結果、セグメント営業利益は60百万円(前期は685百万円の

■ 研究開発費(全社)

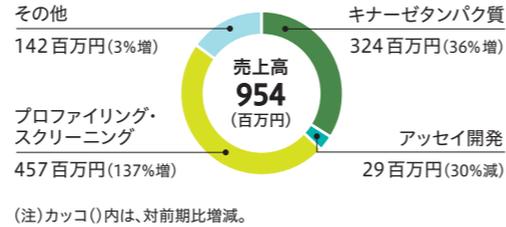


損失)となり、創薬事業においては初となる黒字を計上できました。

【創薬支援事業】

創薬支援事業においては、国内では当期の2月に小野薬品工業と1年間の大規模委託契約を締結し、これに基づくスクリーニングサービスの提供等を行いました。これは主に、2012年に同社と締結した新規キナーゼのアッセイ開発に関する共同研究の成果に基づく受注であります。さらに、海外においては、北米地域で有力バイオベンチャーなど

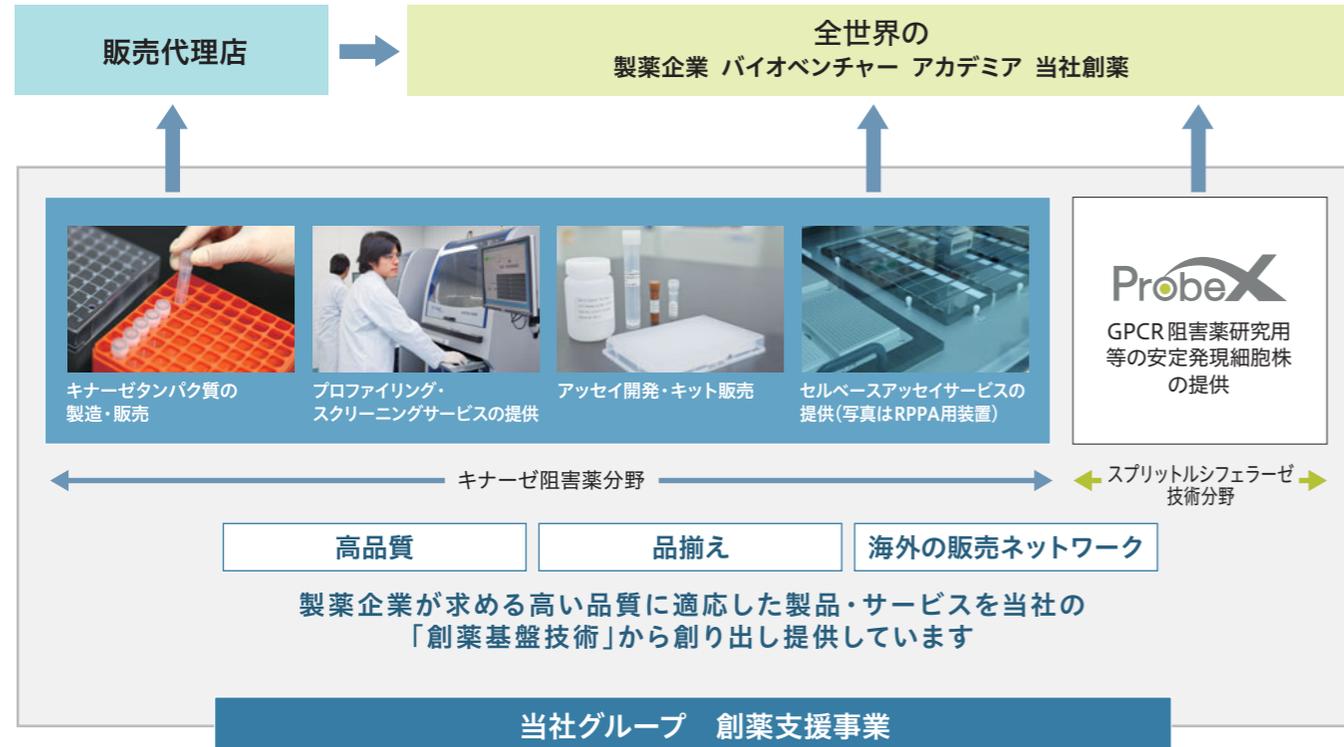
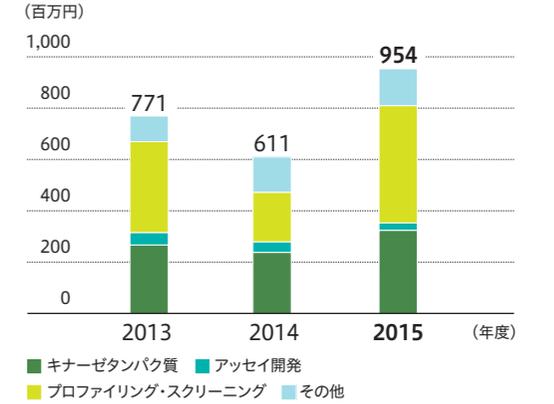
■ 創薬支援事業の売上構成と対前期比増減



に向けキナーゼタンパク質の販売が増加したほか、プロファイリング・スクリーニングサービスも好調でした。欧州は微減となりましたが、アジアなどその他地域では売上が伸張しました。

これらの結果、創薬支援事業のセグメント売上高は、過去最高となる954百万円(前期比56.0%増)の大幅増収となりました。セグメント営業利益についても、高品質タンパク質を中心とした高付加価値の自社製品の販売増と、プロファイリング・スクリーニングサービスの売上増により、前期比8倍強の412百万円と、大幅増益となりました。さらに、2013年に子会社化したProbeX社で、当期に初の売上を計上することができました。

■ 創薬支援事業の売上高



次期(2016年12月期)の展望

【創薬事業】

次期(2016年12月期)の創薬事業では、第2、第3のライセンスアウトを目指して取り組んでまいります。さらに、引き続き当社創薬パイプラインのステージアップと新規パイプラインの創出に注力してまいります。ヤンセン社への導出により、当該医薬品候補化合物に対する開発負担がなくなったことから、その開発リソースを他の研究開発テーマに振り向けていきます。

具体的には、前臨床ステージにある「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬」は、前臨床試験を海外の医薬品研究開発受託機関(CRO)に外注し、臨床試験の申請に必要なデータの取得を行っており、次期中に前臨床試験を完了させる予定です。さらに、実施中の薬効薬理試験では、様々ながん種に対する有効性も確認されたことから、すでに複数の製薬企業が高い関心を示しており、導出に向けた交渉を進めています。

同じく前臨床ステージにある「Wntシグナル阻害薬(NCB-0846)」も



日本医療研究開発機構 (AMED) の支援事業「創薬ブースター」に採択され、前臨床試験を推進中です。当社が国立がん研究センターと独自に研究を行っているNCB-0594についても、ステージアップを目指して研究開発に取り組んでまいります。

これらと並行して、白血病幹細胞を標的としたキナーゼ阻害薬や、北里大学との共同研究による新規マラリア治療薬など、次世代パイプラインのステージアップも進めてまいります(図表・創薬事業の研究開発テーマと進捗状況参照)。当期新たに共同研究契約を結んだ大阪府立大、広島大、神戸大、愛媛大とも協力して、これまで薬を作ること



が難しかった、例えば低分子でタンパク質とタンパク質の結合を抑える方法などの新しい創薬技術の開発に取り組んでまいります。

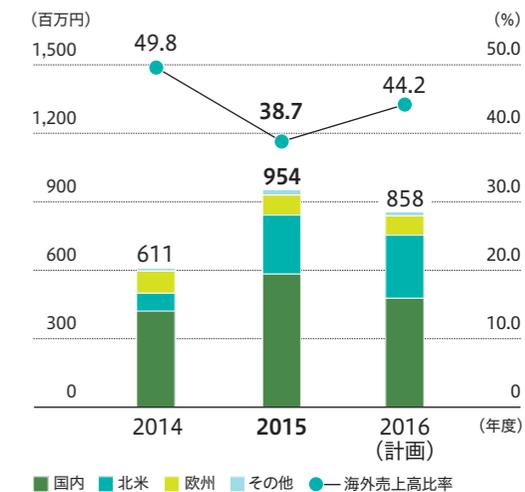
【創薬支援事業】

創薬支援事業では、収益力の高いキナーゼタンパク質およびプロファイリング・スクリーニングサービスの拡販を図ります。キナーゼタンパク質では、特に北米における有力バイオベンチャーを中心に売上の拡大に取り組みます。プロファイリング・スクリーニングサービスでは、2012年に締結した共同研究の成果に基づき、当期の2月に、小野薬品工業と新規キナーゼのアッセイ開発に関する共同研究について新たな契約を締結し、共同研究を進めてまいりました。その成果に基づく新たな受託試験を同社から獲得し、安定的な売上の確保に取り組んでまいります。

以上により、創薬支援事業の連結業績予想では売上高858百万円(前期比10.0%減)、営業利益320百万円(同22.4%減)を見込んでいます。さらに小野薬品工業での実績を活かし、他の製薬企業や大手バイオベンチャーとの大規模受託案件獲得についても北米を中心に注力し、業績の拡大をめざします。

なお創薬事業の業績予想数値の公表は、導出活動における最大価値創出の阻害要因となるため行っておりませんが、ヤンセン社への導出に続く、新たな導出を目指し、導出交渉に取り組んでおり、導出が達成されれば、導出一時金の獲得が期待されます。さらに、当期にヤンセン社へ導出した医薬品候補化合物について、開発の進捗はヤンセン社次第ではありますが、早ければ次期中にも第1相臨床試験(フェーズI)へステージアップの可能性があります。これによるマイルストーン収入が計上できれば、次期の当社グループの連結業績も大きく飛躍することが期待されます。

■ 創薬支援事業の売上計画



創薬事業の研究開発テーマと進捗状況

2015年12月31日 現在

| 化合物       | 適応性    | 標的         | 開発フェーズ                     |                   |                     |             |          |
|-----------|--------|------------|----------------------------|-------------------|---------------------|-------------|----------|
|           |        |            | Lead generation            | Lead optimization | Candidate selection | Preclinical | Clinical |
| 低分子化合物    | 免疫疾患   | Kinase     | J&J (Janssen Biotech) へ導出済 |                   |                     |             |          |
| AS-141    | がん     | CDC7/ASK   | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| Backup化合物 | がん     | CDC7/ASK   | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| NCB-0846  | がん     | Wnt-signal | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| NCB-0594  | がん     | Wnt-signal | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| 低分子化合物    | 白血病幹細胞 | Kinase     | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| 低分子化合物    | 免疫炎症疾患 | Kinase     | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| 低分子化合物    | マラリア   | N/A        | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| 低分子化合物    | 神経変性疾患 | Kinase     | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |
| 低分子化合物    | 貧血     | Kinase     | [Progress bar]             |                   |                     |             |          |



## 中長期方針と株主へのメッセージ

当社は2018年12月期を最終年度とする「中期経営計画」を2016年2月に公表いたしました。新しい中期経営計画では「1)メガファーマへの導出実績に基づいた複数の創薬パイプラインの導出実現」「2)創薬事業の拡大を目指した自社臨床試験の開始」「3)創薬支援事業における安定的な収益の確保」を基本方針に掲げています。

第1については、前述のとおり、導出の実績を受け、当社の創薬パイプラインへの問い合わせが活発化しており、当社にとって最大価値となるような契約締結をめざし導出交渉を継続していきます。

第2については、創薬パイプラインの価値をさらに高めるためには、その薬がヒトで有効であることを示すことが重要となります。そのために、自社でフェーズIIaまでの臨床試験を実施できる体制の構築を進めてまいります。当社では、外部機関を積極的に活用する方針で、そのために開発を推進、管理する人員の採用と、臨床試験を推進するための資金を確保していく方針です。基本的には、創薬支援事業および創薬事業での営業キャッシュフロー収入による資金獲得を最大化する予定ですが、資本市場などからの新たな資金調達も検討してまいります。

第3については、創薬支援事業の売上高目標を「年間10億円」とし、安定的に獲得できる基盤を構築することであります。自社製品・サービスの売上拡大が利益の確保でも重要です。さらに一定規模の大きい仕事をいただくことで、生産性の向上を図ってまいります。今後も市場規模の大きい北米のシェア拡大を中心に、顧客への特注案件の獲得にも注力し、グローバルでのシェアをさらに高めていくことで同事業の収益性を一層高めてまいります。

### ■ 中期経営計画の概要

#### 基本方針

- (1)メガファーマへの導出実績に基づき、複数の創薬パイプラインの導出実現
- (2)創薬事業の拡大を目指した自社臨床試験の開始
- (3)創薬支援事業における安定的な収益の確保

#### セグメント別基本方針

- (1)創薬事業
  - ① 当社創薬パイプラインの大手製薬企業等への導出
  - ② 自社で臨床試験を実施するための研究開発体制の構築
  - ③ 当社研究テーマの早期ステージアップ
  - ④ 次世代の新規創薬研究パイプラインの構築
  - ⑤ 革新的新薬を継続的に生み出す新規コア技術の開発
- (2)創薬支援事業
  - ① 売上高、売上シェアの拡大(年間売上高10億円を目指す)
  - ② 大規模受託試験の獲得による安定的収益の確保
  - ③ 自社製品、サービスの売上拡大
  - ④ 株式会社ProbeX(連結子会社)のスプリットルシフェラーゼ技術の応用に基づく創薬支援ビジネスの拡大

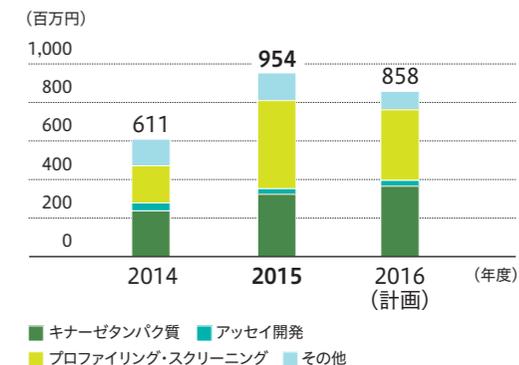
これらの経営方針に基づき、当社グループの企業価値を高めるとともに、当社の企業価値を正當に評価して頂けるよう取り組んでまいります。そのために、国内外の機関投資家による当社株式の持分比率を高めていきたいと考えております。すでに当期から機関投資家へのIRを強化しており、海外の機関投資家にも当社の理解を深めていただくためにも、シェアードリサーチ社のご協力をいただき、日本語版だけでなく、英語版の当社レポートの提供を開始しています。

当社のビジネスモデルは、創薬の研究開発に先行投資を行い、導出にもとづく収益の獲得によって大きく飛躍することを目指しております。その道の途中では黒字となったり赤字になったりということを経ることも考えられますが、今後複数の導出を達成することで、黒字が定着するよう努めてまいります。今後当社の創薬研究開発をさらに強力に推進し当社グループの企業価値を拡大させてまいりますと存じます。

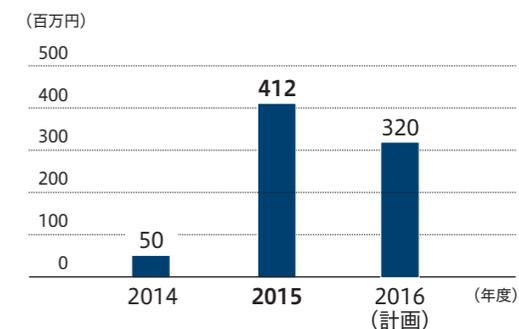
株主の皆様には、当社への一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### ■ 創薬支援事業売上計画(製品別)



### ■ 創薬支援事業 営業損益(計画)



### ■ シェアードリサーチ社のレポート(日本語版・英語版)



<http://www.sharedresearch.jp/ja/4572>



2015年 2月13日

**小野薬品工業株式会社と大規模委受託契約および共同研究契約を結びました。**

当社は、2012年10月に小野薬品工業株式会社と締結した業務資本提携契約に基づき、新規キナーゼのアッセイ開発に関する共同研究を実施し、完成したことから、このアッセイ系を用いた大規模なスクリーニングサービス

等の委受託契約を2015年2月に締結しました。同時に、同社と別の新規キナーゼのアッセイ開発に関する共同研究契約を新たに締結しました。次期以降に本共同研究の成果に基づく受託契約を獲得してまいります。

2015年 3月4日、5月12日、8月6日

**当社が研究開発を進める医薬品が米国・中国で特許を取得しました。**

BTK阻害薬の特許が2015年3月に米国特許商標庁より特許査定通知を受領しました。さらに、当社と国立がん研究センターが共同研究で創出した「TNIKキナーゼ阻害剤」の特許査定通知を5月に米国特許商標庁より

受領しました。また、当社が独自に研究開発を進める「CDC7/ASKキナーゼ阻害薬」についても、8月に中国特許庁から特許査定通知を受領しました。

2015年 6月11日

**当社初の導出契約を米ジョンソン・エンド・ジョンソン社と締結しました。**

当社は、米国ジョンソン・エンド・ジョンソンの医療用医薬品部門の一つであるヤンセン・バイオテック社との間で、当社が創出した医薬品候補化合物の開発・商業化に関する全世界におけるライセンス契約を締結しました。その対価として、当社は契約一時金を受け取ったほか、同社による臨床試験の開発進捗に応じた目標達成報奨

金(マイルストーン支払)ならびに医薬品候補化合物の上市後の売上高に応じたロイヤルティを得ることができます。なお、今回の契約に関する一時金の額及び契約総額ならびに標的キナーゼタンパク質の名称等は、同社との契約に基づき非開示となっています。



2015年 5月11日

**国立がん研究センターとの共同研究の延長契約を締結しました。**

当社は、2011年5月に締結したキナーゼタンパク質を標的とした新規がん治療薬の創製を目的とする共同研究

契約の延長契約を、2015年5月に締結しました。

2015年 8月7日、8月20日、10月22日

**新たな創薬技術の開発をめざし各大学と共同研究契約を締結しました。**

当社は、大阪府立大学、広島大学、神戸大学、愛媛大学と共同研究契約をそれぞれ締結しました。今後、大阪府立大とは構造科学的手法を利用した選択性の高いアロステリック阻害剤の設計手法開発を、広島大学とは慢性骨髄性白血病のがん幹細胞を標的とした治療薬開発を、神戸大学とは構造科学的プラットフォームを利用した医薬

品設計手法確立を、愛媛大学とは新規治療標的分子の探索とその臨床応用を目的に、各大学との共同研究を進めていきます。また子会社であるProbeX社も、東京大学と新しい発光分子プローブ法に関する技術開発を目的とする共同研究契約を結びました。

2015年 11月9日

**当社がJASDAQの「J-Stock Index」の構成銘柄に選定されました。**

当社は、現在東京証券取引所のJASDAQグロースに上場しておりますが、この度「J-Stock Index」の構成銘柄に選定されました。J-Stock Index銘柄は、JASDAQ上場銘柄のうちで時価総額や利益額などに関する一定基

準を満たす銘柄であり、毎年11月に定期選定が実施されます。当社が同銘柄に選定されたのは今回が初めてとなります。

連結貸借対照表

(単位:千円)

| 科目             | 前連結会計年度<br>2014年12月31日現在 | 当連結会計年度<br>2015年12月31日現在 |
|----------------|--------------------------|--------------------------|
| <b>(資産の部)</b>  |                          |                          |
| 流動資産           | 907,589                  | 1,995,790                |
| 固定資産           | 313,856                  | 341,819                  |
| 有形固定資産         | 52,505                   | 37,251                   |
| 無形固定資産         | 2,193                    | 1,451                    |
| 投資その他の資産       | 259,157                  | 303,115                  |
| 資産合計           | 1,221,446                | 2,337,609                |
| <b>(負債の部)</b>  |                          |                          |
| 流動負債           | 195,558                  | 235,992                  |
| 固定負債           | 195,659                  | 231,115                  |
| 負債合計           | 391,218                  | 467,107                  |
| <b>(純資産の部)</b> |                          |                          |
| 株主資本           | 736,219                  | 1,745,925                |
| 資本金            | 2,627,070                | 2,900,784                |
| 新株式申込証拠金       | —                        | 5,946                    |
| 資本剰余金          | 1,445,230                | 1,718,888                |
| 利益剰余金          | △3,336,081               | △2,879,693               |
| その他の包括利益累計額    | 84,718                   | 116,637                  |
| 純資産合計          | 830,227                  | 1,870,502                |
| 負債純資産合計        | 1,221,446                | 2,337,609                |

連結損益計算書

(単位:千円)

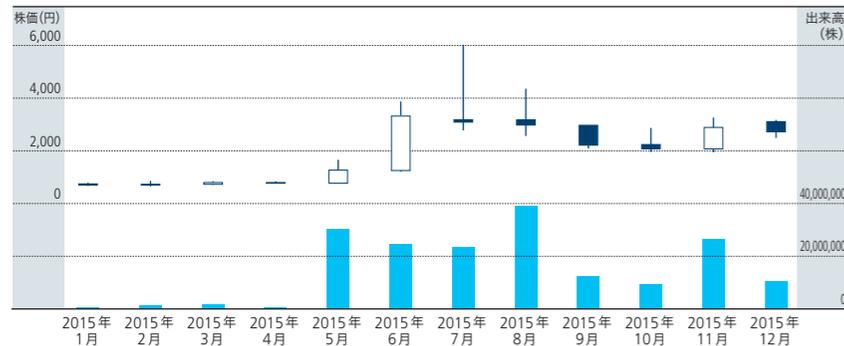
| 科目               | 前連結会計年度<br>2014年1月1日から<br>2014年12月31日まで | 当連結会計年度<br>2015年1月1日から<br>2015年12月31日まで |
|------------------|---|---|
| 売上高              | 611,760                                 | 1,569,205                               |
| 売上総利益            | 378,803                                 | 1,299,611                               |
| 営業利益(△損失)        | △634,949                                | 472,781                                 |
| 経常利益(△損失)        | △607,177                                | 492,233                                 |
| 税金等調整前当期純利益(△損失) | △844,836                                | 486,090                                 |
| 当期純利益(△損失)       | △846,717                                | 456,388                                 |

連結キャッシュ・フロー計算書

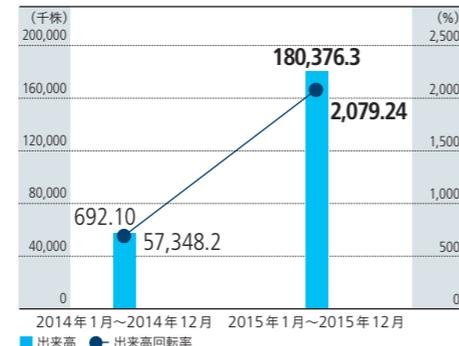
(単位:千円)

| 科目                  | 前連結会計年度<br>2014年1月1日から<br>2014年12月31日まで | 当連結会計年度<br>2015年1月1日から<br>2015年12月31日まで |
|---------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | △468,976                                | 401,645                                 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | △41,826                                 | △3,000                                  |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | 66,574                                  | 602,938                                 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | 3,400                                   | △3,385                                  |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △440,827                                | 998,198                                 |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 1,067,570                               | 626,742                                 |
| 現金及び現金同等物の期末残高      | 626,742                                 | 1,624,941                               |

株価と出来高の推移



出来高回転率



株主の状況

|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 30,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 8,892,700株  |
| 株主数      | 9,184名      |

大株主

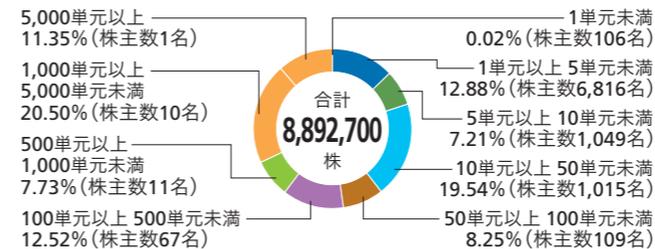
| 株主名                           | 持株数(株)    | 持株比率(%) |
|-------------------------------|-----------|---------|
| 小野薬品工業株式会社                    | 1,009,000 | 11.34   |
| 株式会社SBI証券                     | 377,800   | 4.24    |
| 松井証券株式会社                      | 298,300   | 3.35    |
| 日本トラスティ・サービス<br>信託銀行株式会社(信託口) | 256,700   | 2.88    |
| 吉野 公一郎                        | 200,000   | 2.24    |
| 勝岡 達三                         | 131,400   | 1.47    |
| 日本マスタートラスト<br>信託銀行株式会社(信託口)   | 124,400   | 1.39    |
| 大和証券株式会社                      | 123,100   | 1.38    |
| 日本証券金融株式会社                    | 105,700   | 1.18    |
| 岩井コスモ証券株式会社                   | 103,900   | 1.16    |

株式・株主分布

所有者別内訳



所有株式数別内訳



株主メモ

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 事業年度                      | 1月1日から12月31日まで   |
| 定時株主総会                    | 3月開催   |
| 基準日                       | 12月31日   |
| 上場証券取引所                   | 東京証券取引所<br>JASDAQ(グロース)  |
| 証券コード                     | 4572   |
| 株式の売買単位                   | 100株   |
| 公告方法                      | 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。<br><a href="http://www.carnabio.com/japanese/ir/notification.html">http://www.carnabio.com/japanese/ir/notification.html</a><br>ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 株主名簿管理人および<br>特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社  |
| 株主名簿管理人<br>事務取扱場所         | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  |
| (郵便物送付先)                  | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部   |
| (電話照会先)                   | ☎ 0120-782-031   |
| (インターネット/<br>ホームページURL)   | <a href="http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html">http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html</a>  |

■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

## カルナ<CARNA>の由来

当社の社名である「カルナ(Carna)」はローマ神話の「人間の健康を守る女神」です。また「身体の諸器官を働かせる女神」などとも言われています。

当社は生命科学「バイオサイエンス(Bioscience)」を探究することで「人々の生命を守り、健康に貢献することをめざす」ことを基本理念としています。

当社はまさに「カルナ(Carna)」でありたいと願っています。



## ホームページのご案内

当社の企業情報やIR情報を掲載しています。お問い合わせ等は「IRお問い合わせ」ページからお受けしています。

### トップページ



### IR情報ページ



IRニューズメール新規会員登録  
ただいま会員募集中

最新のIRニュース、IR情報をメールでお知らせするサービスです。

Share Research  
シェアードリサーチ社による  
当社の調査レポートはこちら

当社の調査レポートを掲載しています。事業内容や業績、今後の計画等をご覧いただけます。

## 見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。

これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

# カルナバイオサイエンス株式会社

〒650-0047

神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F

TEL 078-302-7039(代表) FAX 078-302-6665

URL <http://www.carnabio.com>

## 会社概要

|      |  |
|------|--|
| 商号   | カルナバイオサイエンス株式会社  |
| 設立   | 2003年4月10日   |
| 資本金  | 29億0,078万円(2015年12月31日現在)  |
| 事業内容 | 創薬支援事業: キナーゼタンパク質の製造・販売、アッセイ開発、プロファイリング及びスクリーニング・サービス、セルベースアッセイサービス等の提供並びにスプリットシフェラーゼ技術に基づく安定発現細胞株の研究開発及び製造・販売<br>創業事業: キナーゼ阻害薬の研究開発(自社研究及び共同研究)並びに製薬企業等への導出活動 |
| 従業員数 | 48名(2015年12月31日現在)   |
| 所在地  | 神戸市中央区港島南町1丁目5番5号 BMA 3F   |
| 上場市場 | 東京証券取引所JASDAQ グロース(証券コード4572)  |

## 役員(2016年3月24日現在)

|         |        |           |        |
|---------|--------|-----------|--------|
| 代表取締役社長 | 吉野 公一郎 | 社外取締役     | 高柳 輝夫  |
| 取締役     | 相川 法男  | 社外監査役(常勤) | 有田 篤雄  |
| 取締役     | 澤 匡明   | 社外監査役     | 小笠原 嗣朗 |
| 取締役     | 山本 詠美  | 社外監査役     | 中井 清   |

## 海外子会社

|        |   |
|--------|---|
| 商号     | CarnaBio USA, Inc.                      |
| 代表者    | 二村 晶子                                   |
| 所在地    | 米国マサチューセッツ州、ネイティック(ボストン市近郊)             |
| 主な業務内容 | 北米における創薬支援事業(キナーゼ創薬研究に関する製品・サービスの販売・提供) |
| 資本金    | 1,400千米ドル(2015年12月31日現在)                |
| 従業員数   | 3名(2015年12月31日現在)                       |

## 国内子会社

|        |  |
|--------|--|
| 商号     | 株式会社ProbeX                                 |
| 代表者    | 吉野 公一郎                                     |
| 所在地    | 神戸市中央区港島南町1丁目5番5号                          |
| 主な業務内容 | 分子イメージング用プローブ試薬、細胞・動物の企画・開発・生産・販売・コンサルティング |
| 資本金    | 1,000万円(2015年12月31日現在)                     |



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしいベジタブルインキを使用しています。